

題名：

アンヌ・ブッシイ編「九州の町、篠栗で共に生きる -- 内と外の錯綜した力学の中で」

目次：

アンヌ・ブッシイ：読者へ, p.iii-vi.

特集号の序論

アンヌ・ブッシイ：- 篠栗の内と外 -- 民俗学・共同研究によるアプローチ, p.1-25.

第1部：社会文化的／環境的な枠組

鈴木正崇：民俗社会の持続と変容 -- 福岡県篠栗町若杉の事例から, p. 27-113.

アンヌ・ブッシイ：- 外の政治と内の戦略の中での共同体の山林地域への関係 -- 篠栗の山林, p.115-202.

第2部 宗教的なものの構成

森弘子：九州と東アジアの歴史における若杉山とその神社、修験, p.203-267.

中山和久：- 映し霊場の創成、複製、そして衰退の力学 -- 篠栗新四国霊場から, p.269-350.

鈴木正崇：- 仏教寺院の近代化と地域社会—篠栗町南蔵院の場合, p.351-421.

シャルロット・ラモット：生きた石 -- 篠栗霊場における石像の誕生と死, p.427-472.

第3部 社会的なものの核心で

石川稔子：- 変わり行くイエ並びに地域共同体の年中行事 -- 共同生活の場のウチとソト, p.473-546.

神田より子：- 「女達の篠栗 -- 聖の奥と俗の裏」を見つめて, p.547-606.

解題つき日本民俗学および霊場研究の文献目録, p.607-634.

書評

伊藤聰（中世天照大神信仰の研究）, p.641

著者紹介 p.642-645